

2020（令和2）年度 第2回広報委員会 議事録

日時：2020年10月1日（木） 午後7時半～午後8時半

場所：web会議システムを利用して実施

出席：田中信弘（担当理事）、藤原 靖（委員長）、安藤 圭、大谷晃司、重松英樹、
鈴木秀典、田中雅人、成田 渉

欠席：安宅洋美、稲毛一秀、播広谷勝三

陪席：鈴木めぐみ（事務局）

【報告事項】

1.これまでの進捗状況

藤原委員長が、前回委員会にて決定したホームページの修正事項について、これまでに完成したページを説明した。

理事会メンバーの顔写真と一言の掲載（英文ページも同様）、過去の理事会の集合写真の掲載、ATF・VSPの写真の掲載などであった。

一同それぞれのページを確認した。

2.入会案内のQ&Aの最終確認

藤原委員長が、広報委員会内でメール審議した「入会Q&A」について、メンバーシップ・コンプライアンス委員会の西田担当理事と竹林委員長に確認を求めたところ、Q4（コメディカルの新規入会に際し、推薦者は各自で見つけてもらうとしている点）の部分について、竹林委員長から意見があったとして、再度委員会内で検討した。

竹林委員長の意見のように学会側から推薦者を紹介する場合、だれを紹介すべきか決めにくく、学会から推薦者を紹介するのは困難なため、従来通り学会入会を勧めたであろう同病院内の整形外科医から、学会の評議員に紹介してもらうように促す文面とすることになった。

【審議事項】

1.日本脊椎脊髄病学会報告記，大正アワード受賞報告

藤原委員長が、新規に学術集会の報告記の掲載を提案した。原稿執筆の依頼先を誰にするか検討した結果、会長ではなく事務局長の先生（第49回学術集会であれば、大和雄先生）に依頼することになった。

文字数や写真についても検討したが、大和先生の意見を取り入れて文字数や写真枚数も決

めることになった。

また藤原委員長が、大正アワードの受賞者へ受賞報告をしてもらってはどうかと提案し、一同賛成した。どういった内容で原稿執筆を依頼するか検討し、受賞論文の内容の説明は入れてもらうことに決定した。

以上の大和先生や大正アワードの受賞者への依頼は、藤原委員長が行うことになった。

4. 関連学会の紹介について（AO spine など）

田中理事が、湯川先生が 2021 年 8 月 28 日に AO Spine Japan の kongress を担当するのにあたり、JSSR でも会員にインフォメーションしてもらえないかとの依頼があり、すでに理事長が承認していると説明した。

従来、JSSR 以外の学会情報については個別のメール配信等を断ってきた経緯があるため、「関連学会の集会等を紹介するページ」をホームページ内に作成し、そこへ希望があった団体の情報を順次掲載していったらどうかと提案した。

田中雅人委員が、掲載するページを設けるのは賛成だが、掲載する前に誰が審査をするのか、またどのような条件であれば認めるのか基準を設ける必要があると発言した。

大谷委員が、理事長が許可したとしても、一定のルールを作ってそれをクリアしていなければ掲載できないとする必要があると思うと意見を述べ、誰が責任をもって承認したのかを記録しておく必要があると発言した。

事務局鈴木が、従来海外の学会については、国際委員会がいったん確認し、ホームページに掲載したい学会について選別したうえで広報委員会へ依頼していたと説明した。

以上から、国際委員会にも藤原委員長が確認し、掲載可否については原則広報委員会内で検討し、委員会内で回答を出せないイレギュラーな案件については理事会に上申するなどの手順を踏んで進める予定となった。

5. 動画募集について

藤原委員長が、理事長の下命である「動画の掲載」について、どのような動画を掲載すべきかと提起した。

「手術動画」であれば

- ・ レジェンドの手術であれば可
- ・ 誰が閲覧できるかによって、掲載できないものも出てくる
- ・ 代表的な手術動画であれば可
- ・ 5~10 分くらいの短いものがよい
- ・ どのような動画でも患者のプライバシーなどには十分配慮が必要

などの意見が出された。

「トラベリングフェロー動画報告」であれば

- ・紙面よりも雰囲気等が伝わる
 - ・スライドに音声を入れてもらったものでよい
 - ・学会で発表したようなもの
- などの意見が出された。

事務局鈴木が「マイページを用いた学術集会の発表動画」掲載について、以下のようなシステムの開発をしてはどうかと企画を説明した。

- ・学術集会がハイブリッドになったことで、新規に動画を撮らなくても発表動画が学会の知財として存在している
- ・その動画を生かし、動画閲覧のみ、またはEラーニング的なページを作成し、会員特典として閲覧できるようにする
- ・指導医申請のための安全医療単位を取れるようにすると、指導医申請者には大きなメリットとなる
- ・閲覧の有料・無料はどちらでも可能

以上の議論や意見から、広報委員会内では、

- ・無料で閲覧できるもの
 - ・単位は取得できない
 - ・掲載する動画をどれにするかの検討は他の委員会で検討してもらってもよい
- との意見にまとまった。

まずは理事会にて、動画掲載の方向性を確認するために、広報委員会内での議論を報告することになった。

6. 評議員名簿の充実

藤原委員長が、理事会を写真入りで紹介したように、「顔の見える評議員会」を目指して、評議員についても全員分写真および日英表記で掲載してはどうかと提案した。

掲載内容については、写真と氏名のみとしてはどうかと提案し、一同賛同した。

本件についても、理事会の確認を得ながら進めていくことになった。

7. 新しい目標 バナー広告など

藤原委員長が、バナー広告の新規獲得については、どのようにしていくべきかと提起した。

成田委員が、すでに用意されている趣意書があるので、金額については変更せず、理事や評議員から趣意書を企業へ渡してもらうのがよいのではないかと発言した。

理事会としては、バナー広告をどの程度集めたい意向があるのかによって、依頼の仕方なども変わるとして、引き続き検討することになった。

その他

- ・トップページについて 前理事長である中村博亮先生の写真がトップページに大きく表示されるので、松山先生の写真に変更してはどうか

- ・理事長からの依頼：モニタリング認定医制度の広報 資格の説明がどこにもないので、脊髄モニタリングWGとも検討し、ホームページのどこかに掲載する

- ・学生向けや一般の皆さんのページ 広報委員の所属する各病院や大学内の研修医等から、各自次回の委員会までに意見をまとめて報告する

- ・安全医療推進委員会の今釜委員長から依頼の書類 ホームページへアップの希望があった「2020年JCSガイドライン フォーカスアップデート版 冠動脈疾患患者における抗血栓療法」における脊椎脊髄手術の出欠リスクについて

とした書類については委員会内で査収し、ホームページへ掲載することになった

以上